

第2回山都町子ども議会



～ 地域の未来へ繋ごう！子ども議会 ～



町内3中学校の生徒17名が参加した第2回山都町子ども議会が、平成31年1月29日に行われました。議長は清和中学校2年生の佐野智由稀さんが担当しました。

生徒たちは山都町がより良い町になるように、山都町の現状を調べたり、他の市町村の事例を参考にして考え抜いてきた取り組みを梅田 穰町長執行部に提案しました。

質問台や議長席では緊張した様子をしていた生徒達でしたが、堂々と大きな声で発言をし、議会が終了した後は達成感と安堵感から笑顔が広がっていました。

【議長役 佐野智由稀さんの感想】

今日の議会の中で提案されたそれぞれの質問を聞いて、実現すると山都町が今よりもすばらしく、私たちが暮らしやすい町になると思いました。今日の子どもの議会は、議長という立場を通してみんなの考えを聞くことで、初めて知ることができた部分などたくさんありました。とてもいい経験になりました。

【生徒の感想】

- 緊張したけど、すごく良い経験になりました。でも、伝えたいことはしっかり伝えられてよかったです。
- 山都町のことを今までよりたくさん知ることができました。もっと関心をもっていきたいと思いました。
- 議員さんの答弁から、役場では山都町のいろんなことを考えていることを知ることができました。
- 答弁の言葉が中学生には難しい部分もあり、内容を十分に理解できないところがあった。
- 人前で発表する時に大切なことがわかり、参加して良かった。
- 他校の意見を聞いて、山都町をもっとよりよくなる視点があり、参考になった。
- 多くの人の前で一般質問することで、自分の成長にもつながり、貴重な機会となった。
- いい緊張感の中で質問をすることができ、執行部の方の回答もいろいろあって貴重な機会だった。



三月三日、山都町消防団出初式を挙行しました。あいにくの雨で、体育館での開催となりましたが、630名の団員の統制のとれた規律ある姿を拝見し、町民の安全・安心を確保するため生命身体・財産を守ろうとする意気込みを感じ、大変頼もしく思いました。これも松岡団長の指揮の下、常日頃より訓練を重ね、地域を巡回し、常に町や山都警察署、山都消防署と情報を共有しながら連携している結果だと思えます。重ねて感謝と敬意を表します。

また当日は、長年に渡り消防活動に尽力された方々への表彰も行いました。常にボランティア精神を持って消防団活動を支えていただいたこと、その活動を支えていただいているご家族の方々のご協力にも心から感謝申し上げます。



町長室から 梅田 穰

三月一日に、1年間の研修を終えた平成30年度農業研修生2名の報告会と農業後継者就農交付金対象者14名の激励式を行いました。その後、研修生を受け入れる農家の方々と、JAや県農業普及振興課の方を交えて意見交換会を行いました。その中で、若い農業者の農業に対する熱い想いをひしひしと感じる瞬間が多々ありました。研修生の話を聞いてみると、地元に住んでいると気付かない山都町の良さや問題点を感じながら、研修先農家の技術やノウハウを学ぶ取組の強い意欲が感じられ、頼もしく思いました。

親元就農者と新規に農業を始めた。互いに交流を深め、山都の農業を引っ張って欲しいと願っています。町外からの移住者で新規に就農された鳥越さんは、消防団出初式の放水競技の選手として活躍されていましたが、その他の多くの方も一生懸命地域の中に暮らし、溶け込むよう頑張っておられます。町民一体となって、温かく見守り育てていきましょう。

災害時の燃料供給等に関する協定

2月19日、山都町と山都町内燃料加盟店で構成する山都町石油組合は、災害時における非常用電源の確保に伴う燃料供給等に関する協定を締結しました。

地震などの災害時には72時間は外部からの供給なしで庁舎など非常用電源を稼働できるよう、あらかじめ燃料等の確保が必要です。協定により、災害対策本部や避難所等の施設への燃料配送や緊急車両等の給油など、優先的に燃料を供給し、災害応急対応の円滑な実施を図ることができます。



左から坂田石油坂田篤彦社長、梅田町長、古閑石油古閑高年社長、工藤石油工藤一郎社長

熊本電力株式会社、株式会社MARUKU及び山都町との包括連携協定を締結しました。

2月15日、県上益城地域振興局立会いのもと、「熊本電力株式会社、株式会社MARUKU及び山都町との包括連携協定」調印式を行いました。

本協定は、廃校などの遊休施設を活用した企業誘致や地域活性化事業等を行うことにより、地域課題の解決を図るとともに持続可能な社会の実現に向けた施策を推進することを目的としています。

当面の取り組みとしては、旧白糸第一小学校を活用したコンピューティングファームとサテライトオフィススペース2区画を整備し、企業誘致等につなげることをしています。

今後、本協定に基づき、地域資源を有効活用しながら、地域が元気になるようそれぞれ協力・連携して取り組んでいきます。



左から県上益城地域振興局村上局長、梅田町長、熊本電力竹元社長、MARUKU 小山社長